

魚種が少ないことの不安

■少ない魚の種類

今回の調査で採集できた魚類はボラとマルタのみである。(Fig. 1)イシガレイは成長して外海に出たと考えられるが、魚種の少なさには不安を感じる。広い範囲で移動することのないハゼの仲間が見られないことは干潟内の環境に問題があるのではないかと感じさせる。

特にヨシ群落の回復が進まないことは、干潟内の環境に大きな影響を与えているのではないかとと思われる。Fig. 2は2006年6月、Fig. 3は2010年6月の蒲生干潟の様子であるが、どちらも干潟内には青々としたヨシが広がっている。それに対し今回の調査ではヨシは見られない(Fig. 4)。食物連鎖の土台である植物の回復なしには動物の回復も難しいのではないかとと思われる。



Fig.1 ボラ、マルタ



Fig.2 2006年6月の蒲生干潟



Fig.3 2010年6月の蒲生干潟



Fig.4 今回の調査(2012.7月)の蒲生干潟(5枚の写真を合成)